

5. 学生の受け入れ

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

〈1〉大学全体

本学では、2010年度に入学に対する受け入れ方針を策定し、2012年度入学試験実施より大学ホームページや入試ガイドおよび入学試験要項により公表している（5-17 p. 4～7、18、19）。学部の受け入れ方針においては、学部を構成する学科ごとの専門教育の特性を鑑み、学科・専攻毎に教育目標とともに明示している。なお、公表方法は、入試実施当該年度の入学試験要項（入学試験願書）の配付が10月から開始となるため、先立って5月に入試ガイドに記載をして公表している。大学院研究科の受け入れ方針は、入学試験要項に明示している。さらにはカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーおよび課程修了要件と入試実施当該年度のカリキュラム表までを参考資料として別冊子にして入学試験要項とともに配布を行っている。

障がいのある学生の受け入れに関しては、各入学試験要項に受験上の配慮申請の手続を明記している。申請および問合せがあった場合には、各入学試験の出願期間までに、事前に関連部署等と面談の機会を設け、受験に際しての配慮内容や志望している学科のカリキュラム内容と就学上の支援等について説明を行うようにしている。

本学の学生の受け入れ方針は次のように定めている。

入学者受入方針

本学は、「キリスト教主義」・「国際主義」・「リベラル・アーツ」を教育の理念とし、学生一人ひとりが持っている才能を生かして、責任感を持って社会に貢献できる女性を育てることを目指しています。入学者受入にあたっては、それぞれの学部・学科における教育理念および教育目標に基づく専門的知識と理論を修得し、さまざまな分野で社会において貢献・活躍したいと考える多様な優れた資質を有し、学びへの意欲に溢れる女性を求めるとともに、個性豊かな学生が互いを尊重し合い、高め合う教育環境を実現するために観点の異なる複数の入学者選抜を実施しています。入学者選抜において、高等学校における教科学習の総合的な達成度を評価するため、学部・学科ごとの入学試験教科・科目の設定や、学業以外の分野における秀でた個性（活動歴）、異文化体験、社会人としての経験等を評価する複数の選抜方法の設定など、本学の建学の精神に深い理解を示し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を、多様な複数の選考制度を通して広く求めています。

〈2〉学芸学部

学芸学部では、求める学生像について学部・学科ごとの教育目標とともに明示している（5-17 p. 4～5）。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、求める学生像について学部・学科ごとの教育目標とともに明示している（5-17 p. 5）。

5. 学生の受け入れ

〈4〉薬学部

薬学部では、求める学生像について学部・学科の教育目標とともに明示している。(5-17 p. 6)。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、求める学生像について学部・学科ごとの教育目標とともに明示している (5-17 p. 6～7)。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、求める学生像について学部・学科ごとの教育目標とともに明示している (5-17 p. 7)。

〈7〉文学研究科

文学研究科では、求める学生像について教育・研究目的および人材養成の指針とともに明示している (5-16 p. 3～5)。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科では、求める学生像について教育・研究目的および人材養成の指針とともに明示している (5-16 p. 5)。

〈9〉薬学研究科

薬学研究科では、求める学生像について教育・研究目的および人材養成の指針とともに明示している (5-16 p. 5～6)。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、求める学生像について教育・研究目的および人材養成の指針とともに明示している (5-16 p. 6～7)。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

〈1〉大学全体

本学では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。入学者選抜については、公正かつ適切な実施を行うことを目的とし、学部は入試委員会（委員会構成員：入学センター所長、各学部長・学科主任、宗教部長、教務部長、学生部長、企画部長、学長（陪席））において入学試験実施前年度に各種入学者選抜の実施内容および日程等を協議し、全学教授会において最終の審議・決定を行っている。大学院入学者選抜においては、すべて大学院委員会で審議・決定を行っている。

本学で実施している入学者選抜方法は以下のとおりである。なお、AO方式入学者選抜や特定の受験者を対象とした入学者選抜については、それぞれの入学試験要項に選抜方法の趣旨の明示をしている（5-1～5-16）。

【入学者選抜方法（学部）】

- ①一般入学試験（前期日程、後期日程）
- ②一般入学試験（前期日程・音楽実技方式、後期日程・音楽実技方式）
- ③大学入試センター試験を利用する入学試験〈前期、後期〉
- ④推薦入学試験S（公募制推薦入学試験）
- ⑤推薦入学試験C（法人の同窓・校友の子女を対象とした入学試験）
- ⑥推薦入学試験L（学芸学部国際教養学科）
- ⑦推薦入学試験M（学芸学部音楽学科）
- ⑧推薦入学試験B（指定高等学校推薦入学試験）
- ⑨社内校推薦入学試験（法人内諸学校推薦入学試験）
- ⑩協定校推薦入学試験（協定高等学校推薦入学試験）
- ⑪教育連携特別推薦入学試験（教育連携高等学校推薦入学試験）
- ⑫帰国生入学試験
- ⑬社会人入学試験
- ⑭外国人留学生入学試験
- ⑮第二年次転入学試験
- ⑯第三年次編入学試験
- ⑰第三年次編入学（社会人）入学試験
- ⑱推薦第三年次編入学試験（指定短期大学推薦入学試験）
- ⑲AO方式入学者選抜
- ⑳第三年次編入学（社会人）AO方式入学者選抜

【入学者選抜方法（音楽専攻科）】

- ①一般入学試験
- ②特別推薦入学試験（本学学部学生対象）

【入学者選抜方法（大学院）】

博士課程（前期）・修士課程

- ①一般入学試験（第1次募集、第2次募集）
- ②社会人入学試験（第1次募集、第2次募集）
- ③外国人留学生入学試験
- ④特別推薦入学試験（本学学部学生対象）

博士課程（後期）

- ①一般入学試験
- ②社会人入学試験
- ③外国人留学生入学試験

5. 学生の受け入れ

博士課程

- ①一般入学試験（第1次募集、第2次募集）
- ②社会人入学試験（第1次募集、第2次募集）
- ③外国人留学生入学試験（第1次募集、第2次募集）
- ④特別推薦入学試験（本学学部学生対象）

【学生募集方法】

学生募集方法については、前述の多様な入学者選抜を実施する本学にとっては入学希望者に対し公正な受験の機会の保障とそれらの情報を広く提供することは責務であると考えている。そのため、大学ホームページへの各種入学試験情報の掲載をはじめとし、入学試験関連資料をオープンキャンパスや進学相談会において無料配布を行い、全国の高等学校および予備校へも一斉送付している。さらには電話およびe-mail等での請求や、広告代理店との契約による資料請求にも応じ、すべて無料発送の体制を整えている。

大学紹介の広報誌は『大学案内』（5-20）に加えて、『大学案内』では収まりきれない各学科における研究室（ゼミ）の紹介を中心とした学科の学びの内容についてより深く情報提供をするため、「学科パンフレット」（5-21）を作成している。さらに、入学試験関連の資料として「入試ガイド」（5-17）、「入学試験過去問題集」（5-22）を発行している。

本学の学生募集広報活動は、入学試験情報の専用Webコンテンツや新聞・各種進学雑誌などの掲載はもちろんのこと、高校生および保護者さらには高等学校教員との直接接点の機会を多数設けることを主体とし、1）「オープンキャンパス」・「キャンパスツアー」2）「高等学校訪問」3）「高等学校および予備校教員対象進学説明会」4）「業者主催の各種入試相談会、高等学校内ガイダンス」等を積極的に行い、広く大学の紹介および入学試験の情報提供に努めている。

【入学者選抜方法の適切性】

入学者選抜方法は、アドミッションポリシーとそれぞれの選抜方法の趣旨にもとづき、入学試験内容である試験教科・科目の設定および実技、面接、小論文、口頭試問や出願書類等について適切に定めている。出題は学長が委嘱する各科目の出題委員が業務にあたる。出題ミスの防止を第一に複数の出題委員によるチェック体制を整え、入学試験実施の前年度より出題構成等の検討を始め、作問内容検討約7か月間、原稿校正約3か月間にわたっての作業となる。なお、作業期間内の出題原稿や関連資料等は情報漏洩防止のため作業日以外はすべてセキュリティ性の高い警報装置を備えた保管庫に管理し、入学センターが厳密に管理・運用を行っている。

学部の入学試験実施においては、全国より広く学生募集を行っていることから、受験者の地理的な負担を少しでも軽減するために全国主要都市で受験可能な体制を整えている。

- ・推薦入学試験S：全国8試験場

京都（本学キャンパス）・東京・名古屋・大阪・神戸・岡山・高松・福岡

- ・一般入学試験（前期日程）：全国16試験場

京都（本学キャンパス）・札幌・仙台・東京・金沢・浜松・名古屋・大阪（北）・大阪（南）・神戸・和歌山・岡山・広島・高松・松山・福岡

・一般入学試験（後期日程）：全国12試験場

京都（本学キャンパス）・東京・金沢・浜松・名古屋・大阪（北）・大阪（南）・神戸・岡山・広島・高松・福岡

すべての入学試験実施においては、原則として全学体制で行うこととしており、学長を総括責任者、入学センター所長を入学試験実施責任者とした入試本部を設置し、入学試験の実施・運営にあたる。また、学外の試験会場においても複数の専任教員および専任職員を配置しそれぞれの試験場に入試実施本部を設置し、入試本部との連携において公正な試験実施の運営にあたっている。

合否判定は、入学者選抜方法ごとに過去数年間の定着率および入学者比率を参考にしながら学科ごとの収容定員との関連を含め緻密に慎重に行っている。学部入試は入試委員会で査定案を策定・審議し、教授会の議を経て学長が合格者を決定する。また、大学院入試は研究科委員会で査定案を策定・審議し、大学院委員会の議を経て学長が合格者を決定する。入学者選抜において透明性を確保するために、入試結果は、一般入学試験（前期日程・後期日程）において、受験者の合否通知に受験科目ごとの得点と合計得点および合格者最低点を記載し得点情報の開示を行っている。さらに、入試ガイドには過去2年間の募集人員・志願者数・受験者数・受験選択科目情報・合格者数・合格者最低点等を公表している。また、学部・大学院ともに入学者選抜の志願者・合格者・入学者数を過年度に渡ってホームページに公開していることから、十分に透明性を確保しているといえる。

＜2＞学芸学部

学芸学部での学生募集方法については、学部学科ごとに「大学案内」、「入試ガイド」、「学科パンフレット」および大学Webサイトを利用し、学科のポリシー、教育内容、カリキュラム、専任教員紹介、入学試験に関わる情報等を広報している。入学者選抜については、A O方式入学者選抜、公募推薦入学試験、推薦入学試験M、一般入学試験（前期・後期）、大学入試センター試験利用入学試験、社内校協定校推薦入学試験など多様な入学選抜を行っており、受験生に対して公正な機会を保障している。

（音楽学科）

音楽学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

学生募集方法については「大学案内」、「入試ガイド」、「音楽学科入試課題」、「学科パンフレット」および大学Webサイトを利用し、学科のポリシー、教育内容、カリキュラム、専任教員紹介、入学試験に関わる情報等を広報している。

演奏専攻

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	—	—	—	—	—	○	—	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—	—	—

5. 学生の受け入れ

音楽文化専攻

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	—	—	○	—	—	○	—	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	○	○

(情報メディア学科)

情報メディア学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

学生募集方法については「大学案内」、「入試ガイド」、「入学試験要項」、「学科パンフレット」および大学Webサイトを利用し、学科のポリシー、教育内容、カリキュラム、専任教員紹介、入学試験に関わる情報等を広報している。また、オープンキャンパスでは専任教員が教育内容について説明を行うとともに、ミニ講義や体験型講座を実施して、本学科への関心を高めるようにしている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—

(国際教養学科)

国際教養学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	○	—

〈3〉現代社会学部

(社会システム学科)

社会システム学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(現代こども学科)

現代こども学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	○	—

＜4＞薬学部

入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	—	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—

入学者選抜に際しては、薬学の各分野の学問を十分に理解できる基礎的学力、特に化学、生物学、数学、物理学の基礎的学力を評価したいところであるが、現実的には、英語と理科1科目の2教科入試もしくはこれに数学を加えた3教科入試とせざるを得ない。そこで、薬学部における履修内容を考慮し、理科としては化学を重視し、全ての入試区分で化学を課している。また、募集人員の最も多い一般入学試験（前期日程）では英語と化学に数学を加えた3教科入試を採用している。化学では、問題内容や構成に腐心する一方、化学の配点を英語・数学の2倍とすることで、入学後の基礎薬学分野の化学（分析化学、物理化学、有機化学）の基礎となる知識の修得度および理解度を重視している。数学については、物理化学や薬物動態学等で必要となる分野を見据えて、最低限の微分・積分や関数の能力を問う内容としている。

大学入試センター試験利用入学試験では3教科入試（5科目）を採用している。また、推薦入試の中で募集人員の多い推薦入学試験Sでは、学力試験結果に高校での評定平均値を加味することで、一定水準以上の基礎学力を保持している学生を選抜できるよう工夫している。ここでも就学上の関係により化学を課している。

＜5＞表象文化学部

表象文化学部では、各種入学試験の募集要項で示している内容に沿って、公正に入学者選抜を実施している。多様な背景を持った学生を受け入れるため、本学部では一般入学試験の他、各種多様な入学試験を実施し、公正な機会を保障している。また両学科とも第二年次転入学試験、第三年次編入学試験も実施し、学生の受け入れ方針にかなった学生の受け入れに努めている。

（英語英文学科）

英語英文学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	—	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

5. 学生の受け入れ

(日本語日本文学科)

日本語日本文学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

<6>生活科学部

生活科学部では、全学入試委員会の下、入学試験の客観性、公正性、および透明性を担保している。多様な背景を持った学生を受け入れるため、両専攻とも一般入試のほか、下表のとおり複数の入学者選抜方法を行っている。いずれの入試においても合否判定は、公正かつ厳格に採点された結果に基づき、入試委員会で原案を作成し、教授会で厳格に審査している。

(人間生活学科)

人間生活学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

第三年次編入学試験並びに第二年次転入学試験を実施しており、学力・人物共に優秀で、本学科での学習への強い意志を持つ者に、英語と小論文の筆記試験と面接で選考のうえ、転入学・編入学を許可している。さらに、帰国生入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験を実施しており、それぞれに筆記試験と面接により公正に選抜している。

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

(食物栄養科学科)

食物栄養科学科では、入学者受け入れ方針にも明示しているように、下表のような観点の異なる複数の入学者選抜を設定し、自覚をもって勉学に励もうとする個性豊かで有能な女性を多様な複数の選考制度を通して広く求めている。

食物栄養科学科では、両専攻とも、一般入学試験、推薦入学試験S（公募制）、推薦入学試験Cで課せられる試験のうち理科については、「生物」「化学」のうち1科目選択であるところに特色がある。両専攻とも、AO方式入学者選抜第Ⅱ項は実施していない。第Ⅰ項については、食物科学専攻のみ実施している。

管理栄養士専攻では、入学者数が定員の1.1倍を超えないよう厚生労働省から厳しく指導を受けているので途中の学年からの受け入れの余裕がなく、転入学、編入学での学生の受け入れは行っていない。また、本学他学部他学科から学生を受け入れる転学科・転専攻試験も、新入生が1.1倍を超えたことが確定した時点で、実施しないことを学内に周知している（5-23）。

食物科学専攻

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

管理栄養士専攻

一般 前期	一般 後期	セ 前	セ 後	推 S	推 C	推 L	推 M	推 B	社 内	協 定	教 連	帰 国	社 会	外 留	二 転	三 編	推薦 三編	三編 社会	AO	三編 AO
○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—

〈7〉文学研究科

文学研究科では、各種入学試験の募集要項に示された内容に沿って、公正に入学者選抜試験を実施している。本研究科では、博士課程（前期）は9月と2月に入学試験を実施し、博士課程（後期）は2月のみ実施している。なお、博士課程（前期）では、成績優秀な学内出身者には筆記試験を免除する特別推薦入学試験を設けている。各種入学試験の内容は、大学院入試要項の他、大学ホームページや6月に実施している大学院入試説明会等で公開し、志願者からの問い合わせがあればその都度的確に対応している。入学試験の出題・採点については、出題者と各専攻委員長の確認のもと、各専攻とも複数の目によるチェックを実施している。また、いずれの面接試験でも、入学希望者の学力だけでなく、その学習意欲や資質などをはかり、かつ公正性を確保するため、面接担当者は受験者1名に対し、必ず教員2名以上の体制としている。

（英語英文学専攻）

英語英文学専攻博士課程（前期）では、入学試験の募集要項に示された内容に従って公正に入学者選抜を実施している。試験は年に2回（9月と2月）行っている。また成績優秀な学部の4年生には、筆記試験を免除し、口頭試問のみを行う特別推薦入学試験の制度を設けている。これは毎年6月に実施している。

英語英文学専攻博士課程（後期）では、入学試験の募集要項に示された内容に従って公正に入学者選抜を実施している。試験は年1回（2月に実施）である。

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験	特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集		
博士（前期）	○	○	○	○	○	○
博士（後期）	—	○	—	—	—	—

（日本語日本文化専攻）

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験	特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集		
博士（前期）	○	○	○	○	○	○
博士（後期）	—	○	—	○	○	—

5. 学生の受け入れ

(情報文化専攻)

情報文化専攻では、募集についてはA4のパフレットに入学試験日程と特別推薦入学試験の学内説明会日程を明示して学部の学生に配布して周知している。大学院出願書類には大学院のアドミッションポリシー、人材養成に関する目的等、およびカリキュラムを参考資料として学生の受け入れ方針を明示している。

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験	特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集		
修士課程	○	○	○	○	○	○

〈8〉国際社会システム研究科

大学院入試も全学体制で行われている。6月の特別推薦入学試験（受験資格GPA2.5、面接試験）、9月および2月の一般、社会人、外国人留学生入学試験（英語、薬学専門科目、面接）であり、各研究科委員会の査定をもとに、全学の大学院委員会で最終決定される。

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験	特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集		
修士課程	○	○	○	○	○	○

〈9〉薬学研究科

大学院の入学試験も全学体制で行われている。6月の特別推薦入学試験（受験資格GPA2.5、面接試験）、9月および2月の一般、社会人、外国人留学生入学試験（英語、薬学専門科目、面接）であり、各研究科委員会の査定をもとに、全学の大学院委員会で最終決定される。

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験		特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集	
博士課程	○	○	○	○	○	○	○

〈10〉生活科学研究科

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜を適切に行っている。各専攻の入学試験は全学的なスケジュールの下で、7月に特別推薦入学試験、9月、2月に一般入学試験、社会人入学試験、また、2月に外国人留学生入学試験を実施している（資料5-16）。

すべての入試問題は、アドミッションポリシーを踏まえ、募集要項に示された内容に沿って各専攻委員会の教員全員で検討し、偏りのないものとしている。また、いずれの選抜方法も複数の教員が合同で評価を行い、各専攻委員会の教員全員で合否判定案を作成、生活科学研究科委員会の議を経て全学大学院委員会に諮り、公正かつ適正な入学者選抜を実施している。

(生活デザイン専攻)

生活デザイン専攻（修士課程）では、衣・食・住のデザイン追及を核にしつつ、なおかつ生活全般を生活デザインとして修学する意欲ある学生に広く門戸を開き、さらに社会人および外国人留学生も受け入れることとしている。

一般入学試験の試験科目は、研究分野の専門分野に関する小論文「くらしのデザイン」

4テーマ、「こころのデザイン」から3テーマ、計7テーマの出題から専攻する分野のテーマを1つ選択し、論述試験および面接を課している。社会人入学試験では小論文と面接を課している。外国人留学生入学試験では社会人入学試験と同じ試験を課している（5-16）。

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験	特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集		
修士課程	○	○	○	○	○	○

（食物栄養科学専攻）

食物栄養科学専攻では、一般入学試験の試験科目は、英語および栄養学・食品学・調理学3つの専門科目から2科目を選択（ただし、臨床栄養学コースを希望する場合は必ず栄養学を含むこと）する筆記試験と、面接を課している。社会人入試では小論文と面接を課している。外国人留学生入学試験では一般入学試験と同じ試験を課している（5-16）。

	一般入学試験		社会人入学試験		外国人留学生入学試験	特別推薦入学試験
	第一次募集	第二次募集	第一次募集	第二次募集		
修士課程	○	○	○	○	○	○

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

〈1〉大学全体

入学定員と収容定員の設定、入学許可者の審議および在籍学生数の管理は、学部に関しては全学教授会、大学院に関しては大学院委員会が適正に管理を行っている。

入学者数の決定は、過去数年間の定着率を参考にしながら緻密な合否判定を行うべく取り組んでいる。学部の過去5カ年の入学定員に対する入学者比率は、2009年度：1.10、2010年度：1.16、2011年度：1.13、2012年度：1.15、2013年度：1.16であり、5カ年平均においては1.14となっている。学部・学科によって若干違いはあるが全体としては1.10を若干超える数値であり概ね適正な入学者数といえる。2013年4月に開設をした音楽専攻科においては、入学定員20名のところ1.00と開設当初では定員を充足するに至った。大学院の過去5カ年の入学定員に対する入学者比率は、2009年度：0.35、2010年度：0.43、2011年度：0.54、2012年度：0.40、2013年度：0.28であり、5カ年平均においては0.40と入学定員充足率は低い数値となっているため、今後は学生募集のため一層の検討を行っていききたい。

〈2〉学芸学部

学芸学部は、入学定員は315名、編入学定員（第三年次）10名、収容定員は1,280名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.17である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.13であり、概ね適切に管理している。

（音楽学科）

音楽学科は、入学定員は115名、編入学定員（第三年次）10名、収容定員は480名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.14であ

5. 学生の受け入れ

る。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.08であり、概ね適切に管理している。

(情報メディア学科)

情報メディア学科は、入学定員は120名、収容定員は480名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.21である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.20であり、定員を超過している。

(国際教養学科)

国際教養学科の入学定員は80名、収容定員は320名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.15である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.13であり、概ね適切に管理している。

<3>現代社会学部

現代社会学部の入学定員は400名、編入学定員（第三年次）10名、収容定員は1,620名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.12である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.14であり、概ね適切に管理している。

(社会システム学科)

社会システム学科の入学定員は300名、編入学定員（第三年次）10名、収容定員は1,220名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.11である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.13であり、概ね適切に管理している。

(現代こども学科)

現代こども学科の入学定員は100名、収容定員は400名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.16である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.17であり、概ね適切に管理している。

<4>薬学部

薬学部の入学定員は120名、収容定員は720名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.15である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.11であり、概ね適切に管理している。

最近6年間の入学者数を下表に示した。本学部は新設系薬学部の1つで、2005年度から学生を受け入れている。2005年度から2007年度までの3年間は入学者数が入学定員を大きく上回る状況が続いたため、一般入試（後期日程）の募集を停止するなどの入試制度の一部変更を行った。2008年度と2009年度は、3月下旬に他校の大幅な追加合格の発表に伴った入学辞退があり、入学定員を若干下回ったが、2010年度以降は再び入学定員超過となった。2011年度入試から一般入試（後期日程）の募集を開始するなど、再び入試制度の手直しを行ったが、入学定員超過の状況を改善できていない。

最近の6年間では、2008年度と2009年度は入学者数が入学定員を僅かに下回ったが、その後は入学定員超過が続いている。

その結果、在籍学生数は2013年度5月時点で802名となり、収容定員（720名）を上回

る状態が続いている。

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013
入学定員	120	120	120	120	120	120
入学者数	113	113	149	132	140	154

〈5〉表象文化学部

表象文化学部の入学定員は290名、編入学（第三年次）10名、収容定員は1,180名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.09である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.13であり、概ね適切に管理している。

（英語英文学科）

英語英文学科の入学定員は160名、編入学（第三年次）5名、収容定員は650名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.09である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.12であり、概ね適切に管理している。

（日本語日本文学科）

日本語日本文学科の入学定員は130名、編入学（第三年次）5名、収容定員は530名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.09である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.14であり、概ね適切に管理している。

〈6〉生活科学部

生活科学部の入学定員は215名であり、過去5年（2009年度～2013年度）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.17である。また、2013年度の収容定員に対する在籍者数比率は1.21であり、定員を超過している。

（人間生活学科）

人間生活学科の入学定員は80名であり、過去5年（2009年度～2013年度）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.22であった。また、2013年度の収容定員に対する在籍者数比率は1.23であり、定員を超過している。

（食物栄養科学科）

食物栄養科学科の入学定員は135名であり、過去5年（2009年度～2013年度）の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.15であった。また、2013年度の収容定員に対する在籍者数比率は1.19であり、概ね適切に管理している。管理栄養士専攻では、入学者数が定員の1.1倍を超えないよう厚生労働省から厳しく指導を受けているが、2011年度からの3年間は1.1倍を超えた（5-24 表3 管理栄養士専攻）。

〈7〉文学研究科

文学研究科において、博士課程（前期）では、入学定員23名、収容定員46名、博士課程（後期）では、入学定員8名、収容定員24名であり、専任教員数および施設等と照らして適切に設定できている。博士課程（前期）、博士課程（後期）、修士課程における過去5年

5. 学生の受け入れ

の入学定員に対する入学者数比率の平均はそれぞれ0.48、0.23、0.52であり、研究科全体としては入学者数の低迷状態が恒常化している。

(英語英文学専攻)

博士課程（前期）

英語英文学専攻博士課程（前期）の入学定員は8名、収容定員は16名である。過去5年（2009年から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.40である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.50であり、定員を充足できていない。

博士課程（後期）

英語英文学専攻博士課程（後期）の入学定員は4名、収容定員は12名である。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.20である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.42であり、定員を充足できていない。

(日本語日本文化専攻)

博士課程（前期）

日本語日本文化専攻博士課程（前期）の入学定員は10名、収容定員は20名である。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.54である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.60であり、定員を充足できていない。

博士課程（後期）

日本語日本文化専攻博士課程（後期）の入学定員は4名、収容定員は12名である。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.25である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.33であり、定員を充足できていない。

(情報文化専攻)

情報文化専攻では、入学定員は5名、収容定員は10名である。まだ、開設してから4年目と間もないため収容定員が100%に達したことはない。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.52である。2013年度の収容定員に対する在籍学生比率は0.40であり、定員を充足できていない。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科の入学定員は10名、収容定員は20名である。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.22である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.20であり、定員を充足できていない。

〈9〉薬学研究科

3分野、15名の論文指導教員に対し、入学定員4名、収容定員16名であり、1学年4名、総数16名の定員は十分な指導が可能な数である。現在の在籍数は3名であり、指導体制は充分であるが、より多くの学生の入学が望まれる。

内部からの進学生に関しては、特別推薦入学試験がGPA2.5以上という全学的なハードルが、薬学部生は少し厳しすぎる背景がある。特に低学年時の基礎科学科目は厳格な客観テ

ストによる評価が殆どであるために、他学部に比べてGPAの平均がかなり低くなっている。

現状は薬剤師不足であるため、6年制新卒者の大学院進学率が極度に低下しているのが全国的な問題となっている。一方で、質の高い薬剤師が求められている医療現場では、社会人大学院の潜在的需要が高まっている。しかし業務との両立を考えると、現場の薬剤師にはハードルが高く、問い合わせは多いが入学までには至らない。この層を受け入れるため、社会人に対する特別配慮を更に充実させる必要があろう。

＜10＞生活科学研究科

（生活デザイン専攻）

生活デザイン専攻の入学定員は5名、収容定員は10名である。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.64である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.50であり、定員を充足できていない状態が続いている。

（食物栄養科学専攻）

食物栄養科学専攻の入学定員は名8、収容定員は16名である。過去5年間（2009年度から2013年度まで）の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.38である。また、2013年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.44であり、入学者の低迷状態が続いている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

＜1＞大学全体

学生募集および入学者選抜に係る重要事項は、すべて入試委員会の議を経て全学教授会および大学院委員会において最終の審議決定が行われる。入学試験実施結果と当該年度の入試動向などを常任委員会に報告し全学の共通認識と検証を行い、次年度以降に向けた検討を行うこととしている。また、基本方針の策定や検証作業は、学長の諮問機関として入試広報戦略会議（構成委員：学長、企画部長、入学センター所長、総務部長、事務局：企画部、広報課、入学センター）を設置して行っている。

検証作業においては、各入学者選抜における受験者数の推移、合格者に対する入学者数割合（定着率）などはもちろんのこと、入学者選抜方法ごとの入学者の成績の推移および大学生活活動内容等の追跡調査を行い、各選抜方法の適正性を検証することとしている。場合によっては、出身高等学校へそれらの情報を個人情報の保護に留意しながらフィードバックし、高校現場との関連において情報収集にも努めている。

＜2＞学芸学部

AO方式入学者選抜、推薦入学試験S（公募制）、推薦入学試験M（音楽学科のみ）、一般入学試験（前期日程・後期日程）、大学入試センター試験利用入学試験（前期・後期）、社内校協定校推薦入学試験など多様な入学選抜を行っており、毎年度、入試委員会において検証を行っている。

音楽学科では、入学センターと学科主任が過去3年間の受験生数・合格発表者数・入学者数の推移を勘案して毎回、入学者選抜の査定を厳格に行い、音楽学科教員会議、教授会

5. 学生の受け入れ

の議を経て合格者を決定している。

情報メディア学科では、AO方式入学者選抜、推薦入学試験S（公募制）、一般入試（前期・後期）、協定校推薦入試など多様な入学選抜を行っている。入学センターと学科主任が過去3年間の受験生数・合格発表者数・入学者数の推移を勘案して入学者選抜の査定を厳格に行い、教授会の議を経て合格者を決定している。

国際教養学科では、全学の入試委員会において検証を行っている。

〈3〉現代社会学部

AO方式入学者選抜、推薦入学試験S（公募制）、一般入学試験（前期日程・後期日程）、大学入試センター試験利用入学試験（前期・後期）、社内校協定校推薦入学試験など多様な入学選抜を行っており、毎年度、入試委員会において検証を行っている。

〈4〉薬学部

入学者選抜は、大学に対する社会の信頼と関わっており、「入試ガイド」、「入学者選抜要項」などの記載事項、作問、試験実施、採点、合否判定、合格者発表など、入試業務のいずれの段階においても公平・公正さが求められ、誤りは許されない。したがって、毎年、入学者選抜試験においては、入試委員会および入学センターを中心に、入試の用務内容やシステムの見直しおよび改善を図り、より一層の精度を高めるよう実施体制の確立に努めている。なお、入学試験では、全学体制で学生募集・入学者選抜を行っており、入学試験を実施する業務主管は入学センターとなる。

〈5〉表象文化学部

英語英文学科では、入学者の選抜方針、募集方法、募集人数等について、毎年度、入学試験の種類ごとに入試委員会を開いて検証を実施している。

日本語日本文学科では、学生の学力については、教員間で日常的に情報の共有・意見の交換を行い、より適切な入学者の選抜方法について模索している。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、全学的な入試委員会による責任体制の下で各種入学試験を実施している。入学試験ごとの募集人員や、推薦入学試験における出願要件設定などは各学科で原案を作成し、入試委員会の議を経て教授会に諮られる。また、学生募集および入学者選抜の結果は、毎年4月に各学科懇談会にて確認している。

なお、食物栄養科学科では、社内校からの推薦入学に関しては、学科の受け入れ方針と実験・実習が多い特殊性について十分理解した学生を受け入れられるように、高校側担当者定期的に申し入れを行っている。

〈7〉文学研究科

文学研究科では、研究科委員会の中で、次年度の入試制度の計画や現制度の点検を行っている。在学生の成績の追跡調査や、研究状況、退学者の調査等については、各専攻委員長を中心に専攻内の委員会等で検証し、入試制度のあり方や科目、配点、各種改善点につ

いて検証している。

〈8〉国際社会システム研究科

毎年2月の全学大学院委員会における次年度の入試要項の検討に向けて、研究科内で事前に検証している。各専攻とも、学生募集の内容の確認および修正、変更の有無について、毎年専攻委員会で検証し、修正、変更があれば研究科委員会の議を経て大学院委員会に付議する。また、志願者数の増加や入学定員に対する充足率の向上に向けての検討を行っている。

〈9〉薬学研究科

学生募集および入学者選抜は、全学の大学院委員会で最終チェックされるため、定期的に客観的な検証が行われている。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、毎年2月の全学大学院委員会における次年度の入試要項の検討に向けて、研究科内で事前に検証している。各専攻とも、学生募集の内容の確認および修正、変更の有無について、毎年専攻科委員会で検証し、修正、変更があれば研究科委員会の議を経て大学院委員会に付議する。また、志願者数の増加や入学定員に対する充足率の向上に向けての検討を行っている。

2. 点検・評価

●基準5「学生の受け入れ」の充足状況

入学者受入方針に基づき、学部学科の特性に応じた多様な複数の入学者選抜を設定し、適切に実施している。学生募集活動においても一定の効果を上げ、志願倍率は過去10年間にわたり10倍を超えており、安定的に学生を確保している。収容定員に対する在籍学生数については、学部については5学部の内1学部が定員を超過しているが、4学部については概ね適切に管理している。しかしながら、研究科については、4研究科とも収容定員を充足できておらず改善が必要である。

よって、同基準をおおむね充足している。

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

【募集広報活動】

本学の学生募集広報活動の方向性は、2011年度より策定した「誘致→接触→共感→志願」の流れを強く意識した共感型広報をコンセプトとして展開することを基本とし、前年度までの広報活動の内容を精査しながら、当該年度の年間スケジュールを策定している(5-25)。また、オープンキャンパス誘致等の各種広報媒体の有効活用と併せて、ここ数年進学相談会や高校内ガイダンスへの積極的な参加や、高校訪問の強化など直接接点の機会を増加させるなどのより効果的で到達度の高い広報活動を継続的に行っている。

- ・オープンキャンパス

5. 学生の受け入れ

年間5月より3月まで9～10回開催をしている。総来場者数はここ数年1万を超える数値で推移をしている(5-26)。オープンキャンパスの実施内容についても毎年検証を行い、従来の学部・学科の紹介やミニ講義に加え、体験型講座を新規に実施するなど、参加者の興味関心に応じて参加可能なプログラムを複数用意している。さらに、内容も上半期まではイベント性の強いものとし、10月以降は入試対策の色合いを強くするため、「英語」と「国語」の2教科について入試対策講座を実施するなど、開催時期にあわせ開催ごとの特徴を持たせることによって、複数回の来場を狙っている。また、来場者への接触対応強化として、「同志社女子大学プロモーション委員会」を立ち上げて活動を開始させた。この委員会は、学生が主体的に母校の広報に携わることを目的としたものであり、オープンキャンパス当日の配付物作成や、他の学生スタッフへの指導および各種入学センターの広報活動に携わっている。

・教員対象説明会（高校および予備校教員）

本学の近況と前年度の入試結果および当該年度の入試概要の説明を全国の主要な都市（名古屋、大津、京都（2キャンパス）、大阪（北）、大阪（南）、奈良、神戸、岡山、高松）で毎年開催をしている。近年は、プログラムにプロモーション委員会の学生による学科紹介を盛り込み、在学生の目線によるカリキュラム内容や学生生活等のプレゼンテーションを行っている(5-27)。

・高校訪問

本学の案内と当該年度の選抜方法を含む最新情報を直接かつ継続して紹介・説明することにより、高等学校教員の本学への理解と信頼を深めることを目的とした広報活動である。訪問範囲は近畿地区および西日本を中心に前年度の入試結果を勘案しながら設定し、訪問時期は6月～7月を第1期、9月～10月を第2期、12月を第3期として複数回訪問し、高校ごとに入試結果の報告および本学のオープンキャンパス等の入試関連情報の提供や志願動向の情報収集などを行っている(5-28)。

・各種入試相談会および高校主催説明会

入試相談会および高校内ガイダンスについても、オープンキャンパス同様に受験者および保護者との接触回数を増加させるべく積極的に参加している。さらには、京都女子大学、神戸女学院との合同による高校内ガイダンスや、同志社大学との合同説明会も開催している(5-29、5-30)。

・出張講義

本学の高大連携事業の一環として、高等学校へ本学専任教員が出向き出張講義を行っている。2012年度は年間100を超える回数にのぼる(5-31)。

以上が近年強化している主な取り組み内容であり、直接の接触機会を増やすことは広く情報発信する目的はもちろんのこと、本学と入学生とのミスマッチを極力なくすことにもつながっていると考えている。2011年度以降のオープンキャンパスの来場者数の増加や各種相談会での相談者数の増加（前述資料参照）を考えれば、これらの広報活動を通じて、オープンキャンパスおよび各種相談会への誘致と受験者・ご父母・高等学校進路指導担当の教員等の接触までの流れがうまく作用してきていると捉えている。

また、総志願者数においては2007～2009年度の15,000超より若干減少してはいるが、隔年において増減を繰り返している推移(5-32)となり2年連続して減少がないことや、本

学の学部・学科ごとの志願者数の増減には前年度の入学者選抜別の志願者数および実質倍率が大きく影響していると考えれば、それだけ受験者は注意深く本学に興味を持っていることの現れとも捉えることができる。

【入学者選抜方法】

公募制推薦入学試験Sおよび一般入学試験（前期日程・後期日程）の選抜方法については、英語を必須科目として各学部学科が指定する教科科目を設定し、受験者と高等学校の教員にとってわかりやすいシンプルなものとしてきた。高等学校における基礎的な教科学習の達成度を評価するため、現状のシンプルな選抜方法を今後とも堅持していきたい。

2009年度より取り組んできた教育連携事業は現在14の高等学校と協定するに至っており、この教育連携協定による推薦入学試験については5ヵ年平均で約60名を超える入学者を確保し着実に効果をあげている（5-33）。今後も入学者の成績等の追跡調査を行いながら効果測定を行うとともに、一般選抜との質量のバランスを見極めながら一層の充実に努めていく。

＜7＞文学研究科

英語英文学専攻博士課程（前期）の授業内容や修了生の進路などを紹介する文書を2012年に作成した。これを2012年と2013年に在學生に配付して大学院への進学を呼びかけている。

英語英文学専攻博士課程（後期）に熟年の入学者が増える傾向がうかがえる。大学院修了後、長年英語教育に携わって来た者が、定年退職などを機に大学院で研究を再開するというケースである。女性の多様なライフスタイルの選択が可能となった現代、勉学意欲旺盛な中高年院生の存在は、現役学生だけでなく卒業生への刺激になり、大学院進学希望者の増加につながると期待できる。

②改善すべき事項

＜1＞大学全体

アドミッションポリシーを策定し大学ホームページでの公表と前述のとおり学部においては、発行時期を勘案し入試ガイドには記載をしているが、実施しているすべての入学者選抜要項には記載ができていない。

入学定員管理については、学部全体でみれば、学部学科に若干の違いはあるもののほぼ適正な入学者数となっている。ただし、第三年次編入学の入学定員を設定している学科においては充足していない。大学院においても過去5ヵ年の平均では5割に満たない充足率の数値となっている。2009年度より、大学院修士課程および博士課程（前期）、博士課程では、入学者確保のため、本学学部生を対象とした特別推薦入学試験制度や、各研究科での履修において職業を有している等の事情により、標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、1年を単位として3年以上最長6年（薬学研究科は5年以上最長年8）で計画的に教育課程を履修し修了する長期履修学生制度の整備などを行ってきたが、今後に向けて魅力ある研究環境の整備とともに定員充足に向けてさらなる努力をしたい。

5. 学生の受け入れ

〈6〉生活科学部

人間生活学科では、収容定員に対する在籍学生数比率が1.23と高くなっている。定着率を厳格に読み解き、適正な定員管理を図る。

食物栄養科学科では、特に管理栄養士専攻において毎年定着率の予測が難しく、適正な定員管理に苦慮している。

〈7〉文学研究科

文学研究科の在学学生数比率がここ数年間50%を割っている。この事態を受け研究科委員会で志願者・入学者確保のための方策を近々に検討する必要に迫られている。具体的には①研究科や専攻別の理念と学生受け入れ方針の具体化、②教育・研究指導方法や内容の見直し、③修了後の進路・就職先の確保、④更なる学費の減額や奨学金制度の充実、等を包括的に検討する必要がある。

英語英文学専攻博士課程（前期）では、大学院へ進学する学生を増やすための方策を考える必要がある。

〈9〉薬学研究科

開設3年目の収容定員12名に対し、在籍者数は3名であり、十分な指導が可能であるものの、より多くの入学者が望まれる。

〈10〉生活科学研究科

生活デザイン専攻では、入学定員の充足ができていない状態が続いている。社会人および外国人留学生の出願がとりわけ低迷している。

食物栄養科学専攻では、臨床栄養学コースに入学者が偏る傾向がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

【学生募集】

学生募集に関する広報活動は2011年度に策定した広報展開の枠組みを踏襲しつつ、さらなるオープンキャンパスへの誘致広報活動と本学接触者への対応の強化・充実を図るなど、「共感→出願」への流れを強く意識した施策を講じていく。総志願者数は志願倍率約10倍を下回らないことを目標にし、受験生のニーズや入試の動向を踏まえ志願者数の確保に向けた施策を実施する。

【入学定員管理および入学者選抜方法】

本学では2015年度に新学部を設置を計画しており、現在においては既存学部学科の入学定員と第三年次編入学の入学定員の検討を行っている。そのうえですべての入学者選抜の募集人員を見直す作業を行っている。もちろん文部科学省が「大学入学者選抜実施要綱」で定めている、「大学における推薦入試の募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲において各大学が定めるものとする」を遵守しながら、基礎的学力のある質の高い学生を安定的に確保するために取り組んできた教育連携事業を充実させること

などを含め、志願者の量的確保と入学者の質的確保に向け、一般選抜と推薦系入学試験のバランスを見極めながら検討を進めていく。

入学者選抜方法については、新学習指導要領が交付されてから「数学」・「理科」の科目が先行実施となっており、2015年度に最初の入学試験を迎えることになる。本学ではすでに2013年3月にホームページで出題科目と出題範囲を公表しており、今後、出題について厳格な作業の遂行・管理を実現していく。そのほかでは、特にAO方式入学者選抜を実施してから10年が経過していることから、学部学科において選抜方法についての検証および見直しを2015年度実施に向け作業中である。

＜7＞文学研究科

英語英文学専攻博士課程（前期）では、学部学生への大学院紹介や大学院進学奨励、大学院修了生の進路の拡大（教職に限定されず、一般企業への就職もある）等の結果、大学院の2年間も視野に入れて将来計画を立てる学生が少しであるが増えてきている。大学院進学者の増加が期待できる。

英語英文学専攻博士課程（後期）では、2014年から社会人入学試験の制度を新たに実施することとなった。これにより中・高等教育機関で英語教育に携わってきた修了生の大学院博士課程（後期）への回帰促進が期待される。

②改善すべき事項

＜1＞大学全体

ここ数年隔年で増減を繰り返している総志願者数の推移は、前年度の実質倍率が大きく影響している結果であるとするのならば、それだけ注意深く本学に興味を持っている現われと同時に「入りたい大学」選びから「入れる大学」探しの受験動向とも捉えることができる。本学に興味を持ってなおかつ本学で学びたいと考える志願者の安定的な確保と入学者の定着率の向上を目指す。まずは、すべての入学試験要項にアドミッションポリシーを記載することはもちろんのことカリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーをも記載し周知を図っていく。その上で、伝統的に培ってきたきめの細かいサポート体制など他大学にはない本学の魅力を継続して発信し、選ばれる大学となるための施策を検討していく。

＜6＞生活科学部

生活科学部では、入学者受け入れ方針に則った適正な学生の確保に向けて、各種入学試験による募集人員について今後再検証する。

人間生活学科では、定着率予測の精度を高めて適正な定員管理に努める。特に、一般選抜入学試験合格者の定着率を上げるために本学科の魅力を強くアピールし、優秀な学生を確保することに努める。

食物栄養科学科では、特に管理栄養士専攻において、定着率予測の精度をより高めて適正な定員管理に努める。

＜7＞文学研究科

5. 学生の受け入れ

文学研究科では、適正な学生の確保に向けて、定員の見通し（削減）も視野に入れて検討する。従来の研究者養成にとどまらず、社会人の受け入れもさらに充実させ、教職希望者の受け皿として、また、現教員の再教育の場としての活用など、開かれた大学院として学生にアピールしたい。

特に、英語英文学専攻博士課程（前期）への進学者数が伸び悩んでいる原因を探り、対策を講じる。

〈9〉薬学研究科

現在、薬剤師不足のために大学院進学を選ぶ学生が減少していること、医療現場での博士号の評価が不透明なこと、社会人入試制度の認知度の低さなどから、本学のみでなく、全国的に薬学分野の博士課程は、定員を大きく下回っている。入学者確保のために広報活動を活発化させるとともに、夜間開講や長期履修制度といった社会人学生がより入学しやすい制度を設けていることについても認知度も上げていきたい。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、学部学生への周知の徹底および社会人、外国人留学生への広報活動等を図ることで入学者数の確保に努める。

4. 根拠資料

- 5-1 2014 年度入学者選抜要項（推薦入試S、一般入試、センター利用入試）
- 5-2 2014 年度推薦入学試験C要項
- 5-3 2014 年度推薦入学試験M要項
- 5-4 2014 年度推薦入学試験L要項
- 5-5 2014 年度推薦入学試験B要項
- 5-6 2014 年度帰国生入学試験要項
- 5-7 2014 年度社会人入学試験要項
- 5-8 2014 年度外国人留学生入学試験要項
- 5-9 2014 年度AO方式入学者選抜要項
- 5-10 2014 年度第三年次編入学（社会人）AO方式入学者選抜要項
- 5-11 2014 年度第三年次編入学試験要項、第二年次転入学試験要項
- 5-12 2014 年度第三年次編入学試験（社会人）要項
- 5-13 2014 年度 同志社女子大学 社内校推薦入学試験要項
- 5-14 2014 年度 同志社女子大学 協定校推薦入学試験要項
- 5-15 2014 年度 同志社女子大学 教育連携特別推薦入学試験要項
- 5-16 2014 年度 同志社女子大学大学院入学試験要項
- 5-17 入試ガイド2014（既出：1-16）
- 5-18 同志社女子大学受験生サイト「ホーム：入試ガイド：アドミッションポリシー」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/admissions/exam_information/adamic_policy2.html)
- 5-19 同志社女子大学受験生サイト

- 「ホーム：入試ガイド：学部・学科アドミッションポリシー」
 (http://www.dwc.doshisha.ac.jp/admissions/exam_information/faculty_policy.html)
- 5-20 同志社女子大学 大学案内 2014 (既出：1-5)
 - 5-21 学科パンフレット 2014 (既出：1-18)
 - 5-22 2014 年度入試対策 入学試験問題集 (前年度)
 - 5-23 「管理栄養士専攻への転学部・転学科・転専攻について」
 (2012 年 4 月 18 日 教授会資料)
 - 5-24 2014 (平成 26) 年度「大学評価」申請用 大学基礎データ (表 3)
 - 5-25 2012 年度入学広報年間スケジュール
 - 5-26 オープンキャンパス参加者数
 - 5-27 2013 年度同志社女子大学教員対象進学説明会 (実施年度 2012 年度) 5. 実施結果
 - 5-28 都道府県別高校訪問件数 (2010 年度～2012 年度)
 - 5-29 進学相談会参加状況 (2010 年度～2012 年度)
 - 5-30 高校内ガイダンス参加状況 (2010 年度～2012 年度)
 - 5-31 2012 年度出張講義実施実績
 - 5-32 同志社女子大学志願者数推移 (1989 年度～2013 年度)
 - 5-33 教育連携特別推薦入学試験出願実績 (2009～2013 年度)
 - 5-34 2013 年度入学者選抜要項 (推薦入試 S、一般入試、センター利用入試)
 - 5-35 2013 年度推薦入学試験 C 要項
 - 5-36 2013 年度推薦入学試験 M 要項
 - 5-37 2013 年度推薦入学試験 L 要項
 - 5-38 2013 年度推薦入学試験 B 要項
 - 5-39 2013 年度帰国生入学試験要項
 - 5-40 2013 年度社会人入学試験要項
 - 5-41 2013 年度外国人留学生入学試験要項
 - 5-42 2013 年度 AO 方式入学者選抜要項
 - 5-43 2013 年度第三年次編入学 (社会人) AO 方式入学者選抜要項
 - 5-44 2013 年度第三年次編入学試験要項、第二年次転入学試験要項
 - 5-45 2013 年度第三年次編入学試験 (社会人) 要項
 - 5-46 2013 年度 同志社女子大学 社内校推薦入学試験要項
 - 5-47 2013 年度 同志社女子大学 協定校推薦入学試験要項
 - 5-48 2013 年度 同志社女子大学 教育連携特別推薦入学試験要項
 - 5-49 2013 年度 同志社女子大学大学院入学試験要項
 - 5-50 入試ガイド 2013